

“Aberrant” expression of skeletal muscle markers in neuroendocrine carcinomas: a significant diagnostic pitfall

Garcia-Porrero G, Wood F, Faria S, et al. *Virchows Arch.* 2024;485:625-629.

要旨

Neuroendocrine carcinoma (NEC)は種々の臓器に生じ、その鑑別の1つに rhabdomyosarcoma (RMS)があるが、RMSは神経内分泌マーカーを時に発現することが知られている。筆者らは逆に NECにおいて筋系マーカーが発現することがあるのかを明らかとすべく、本研究を行った。

23例の NEC (小細胞型14例、大細胞型9例)が登録され、うち15例が生検、8例が切除材料であった(table 1)。筋系マーカーとして desmin, myogenin, myoD1 を用いた。染色性は diffusely positive ($\geq 50\%$ cells staining)、focally positive ($< 50\%$ cells staining)、negative の3群とした。

患者の年齢分布は45～82歳(中央値69歳)で、14例が婦人科腫瘍、3例が消化管腫瘍、4例が肺腫瘍、1例が起源不明の肝転移巣であった。組織学的には2例の卵巣例が高異型度漿液性癌を併存したが、残りの21例は純粋な NECであった(Fig. 1, Fig. 2)。免疫組織化学的に全例で局所的な上皮性マーカーの発現と、chromogranin, INSM1, synaptophysin, CD56のうち3種の発現がみられた。筋系マーカーのうち1種以上を発現したのは14例(61%)あり、desminは8例(35%)、myogeninは8例(35%)、myoD1は11例(48%)で発現がみられた。筋系マーカーの発現は多くの場合局所的で、腫瘍細胞の10%未満に発現するのみであったが、びまん性に発現する症例もみられた。筋系マーカー発現の有無による細胞形態の差は見いだせず、形態的にも筋系への分化を思わせる像はみられなかった。

Take Home Message

1. RMSにおける神経内分泌マーカーの発現は珍しい事ではなく、逆に NECにおける筋系マーカーの発現も限局性ではあるものの、珍しい事ではない。
2. 診断時のピットフォールとして上記を認識しておく必要がある。